「って」の体系

三　枝　令　子

1. はじめに

近年，音声の認識技術が進歩し，話し言葉の分析が一段と活発に行われるようになってきた。ここで取り上げる「って」も話し言葉に特有の表現である。「田中さん今度引っ越すんですって」とか，「彼，来るって」といった使い方がすぐに思い浮かぶが，「やさしいって，すてきなことだ」といった係助詞の「は」に近い使い方や，「いいから，おまえは来るなって。」といった終助詞に近い使い方もある。本稿では様々な「って」の構文条件とその意味を明らかにしながら，これらの「って」が全体として一つの体系を成していることを示していきたい。

2.「って」の語義

「って」は，歴史的には「とて」が変化したものと考えられている（湯沢 1957[1]，此島 1973[2]）。「って」には，大きく分けて，「引用」と「逆接条件」の二つの用法があるが，この二つの用法は『源氏物語』にもすでに見られる。（下の例は，此島 1973 のもの。）

1)「見奉りてくはしく御有様も奏し侍らまほしきを，待ちおはしますらむを，夜ふけ侍りぬべし」とて急ぐ（「桐壺」）
2) この人の宮仕の本意かならずとげさせ奉れ。われなくなりぬとて，口惜しう思ひくづほるな（「桐壺」）

上の例の「とて」は「引用」，下の例は「引用」に取ることもできるが，「逆接条件」にも取れる。「と」には，「A と B」という場合の並立助詞や，「ゆっくりと」等の副詞の構成要素となる用法もあるが，「って」に含まれる「と」の基本的な用法は，「引用」

と「逆接条件」に限られる。一方で，「って」は，連用形という形を取っているために，接続の仕方には広がりがある。「とて」から変化した「って」は，「と」の持つ「引用」「逆接条件」という基本的な用法に加えて，後に見るようにさまざまな派生用法を持つが，これは，文の中での続き柄が自由で，文内の異なる位置に現れ得るという連用形「て」の性格によるところが大きい。具体的にそれらの用法を検討する前に，森重敏による先駆的な研究を紹介し，本稿の参考にしたい。

3. 森重敏による「って」の分析

「って」については，古くは，佐久間鼎（1956[3]）が「って，ってば，ったら」について，その終止助詞，係り助詞用法を，また，接続用法の「たって」を取り上げている。「って」の用法を個別に論じたものはこのほかにもある[4]が，さまざまな「って」を体系的にとらえたものは，今まで森重のほかにはなかったと言ってよい。

森重は，「「て，って」「てば，ってば」「たら，ったら」について」（1954）と題する論文で，これらの語を体系的に取り上げている。のちに『日本文法――主語と述語――』（1965）の中でも，森重の独自の文法論の中に位置付けながらこれらの語について再度まとめている。以下に，両者の内容を筆者なりにまとめたものを示す[5]。表中の主者は話し手，対者は聞き手，他者は第三者，全体者は主語一般を意味する。ここで問題にしているのは「って」の前に来る句の話者で，それを聞き手とすると文全体の聞き手と紛らわしい。そこで本稿の分析でも，主者，対者，他者の用語をそのまま用いることにする。「　」内は，置換される語である。

「いう」の主語	文例	意味	品詞
特定の個別者	お上手だってほめてたわ。	引用	動詞＋接続助詞
不定の個別者	君は絵の方もやるんだってね。	伝聞	助動詞
対者	なんですって？	反芻的反問 「というか」	助動詞＋係助詞
対者～主者	だれかって，きまっているよ。	反復 「というか， それは」	接続助詞/接続副詞
主者（全体者性）	早くしろってば。お父さんって。	喚体	終止としての係助詞
全体者	お姉さまってばだめよ。	「は」	係助詞
全体者	クウってうちの犬だよ。	「とは」 「というのは」	係助詞

森重の分析で注目されるのは，「いう」の主語が誰かという観点から「って」の用法の違いを考えている点である。非常な卓見だが，森重の文法論にとっては，こうした分析方法は，当然のことであったと思われる。森重は，文は主語，述語の相関，“S—P”として捉えるべきだという。もし，そう捉えられないときには，SあるいはPが変化しているのだから，その成り立ちが明らかにされなければならない。こうした立場から注目された述語の一つが，引用動詞であり，引用の「と」「って」だった。二つの句から成る文の構造をS−P=S′−P′とすると，上の表のたとえば「君は絵の方もやるんだってね。」という文は，「(君は絵の方をやる）んだって。」と考えられるから，二つ目の主語が省略されたS−P=(S′)−P′という構造を持っているということになる。「って」はこうした主語，述語の消去と呼応して，表の右端の品詞をみてわかるように，助動詞相当から係助詞相当へと用法を変えていく。森重は，この変化の一番の要因は，「いう」の主語が表の上方にある特定の個別者から表の下方の，主者，対者を区別しない全体者へと変化することにあり，この変化につれて主語述語が一般化し，もともとは動詞性を含んでいた「って」が係助詞的になると考える。

4.「って」の体系

「って」の体系にここでは引用だけでなく逆接条件の「って」も含めて考える。その理由として，1.「引用」「条件」ともに「とて」が起源と考えられること，2. 形態の類似性と意味の共通性。「引用」では，ある発話，思考が異なる場に持ち込まれる。持ち込まれた時点で，もとの発話，思考は現実ではなく想念になる。「条件」も現実ではない，ある考えが想定される。3. どちらも係助詞へと変化し，変化に平行性のあること，があげられる。次に見るように，引用，逆接という意味の違いは，主文の述語によってもたらされている。

	引用	逆接
行ったって　聞いた。	○	
行ったって　信じられない。	○	○
行ったって　かまわない。		○

三枝（1995）で述べたように，この三文それぞれの意味は，「って」節と主節の意味関係とその文をとりまく文外の状況からもたらされているわけで，「(た）って」自体

にもともと逆接の意味はない。ちなみに先ほど紹介した森重は，1954年の論文では，引用に関わるものだけを取り上げているが，後の『日本文法』では，副助詞として「といふとも＝にありとも＞であっても＞だって（でも）」の変化をあげており，名詞に下接する「だって」については，引用と条件用法の間に関連性があることを指摘している[(6)]。

本稿では，文に現れる位置，主文の述語の種類，「って」が受ける句の発話者等の統語的条件によって，引用を基本的な意味に持つ「って」が異なる用法を持つことを示したい。まず，「って」の用法を引用，逆接に大別し，さらにそれぞれをいくつかの下位用法に分類する。はじめに，「引用」の用法から見て行きたい。

4.1 「引用」の「って」「だって」

「引用」の「って」を，“引用”“話題の引き込み”“反復”“伝聞”“言いつけ”“問い返し”“強調”の七つに分ける。まず，それぞれの用法を順に見て行こう。

4.1.1 “引用”

引用とは，大雑把に，実際に行われた発話，思考行為があって，それを異なる時点の話に持ち込む働きと言えよう。発話・思考は実際に行われたものだから，当然，発話，思考の主体が特定される。また，対応する，発話，思考動詞のあることが多い。この場合，「って」は「と」に言い替えが可能である。「と」への言い替えは，この“引用”の「って」の場合にしか起こらない。

3）あのとき傘をさしてけって，うるさく云った子がいたっけ，（さぶ）

4）少しだまってとかってどなるだけ（季節）

5）お互いにこれが自分のとうちゃんだ，これはおれの子だって，しんから底から思えればそれが本当の親子なのさ，（季節）

引用動詞が現れない次のような用例もある。

6）仕事が終りしだい戻って来るって，本町のお店とかへいったわ（さぶ）

7）もうおめえはいかなくてもいい，って親方から仕事を外されちまいました（さぶ）

8）うかがいたいことがあって来たって，取り次いでくれ（さぶ）

ここでも「って」と「と」の言い替えは可能だ。述部に思考，発話に類する動詞がないこうした例では，述部に，「って」の前の思考，発話と「共存する動作，状態」が来ることを，藤田（1986）が指摘している。

引用の意味で，「って」ではなく条件形が用いられることもある。

9) あのときってえばわかるだろうが，（季節）

10) いいったら，（略）しんぱいするなよ（さぶ）

この形では，次の例のように慣用化した用法が多い。

11) うるさいったらうるさい。

12) 寝ろったら　寝ろよ（さぶ）

連体修飾用法には明かでない点が多いが，用法自体はこの“引用”に含まれると考える。

13) いまさらって気もするけど……（阿修羅）

14) 行くってな話は聞いてない。

さらに，次の「だからって」もここに含める[7]。

15) ちんばだからって寄場人足に変りはねえだろう（さぶ）

16) どうしても必要だからって，いろいろ事情をかいた手紙（季節）

4.1.2 “反復”

「って」の中には，明らかに聞き手の発話を引用しながら，その発話を直接受ける発話，思考動詞がないものがある。

17) a　それだけ？

b　それだけって，ほかになにかあるんですか。（隣）

18) a　お母さん，ねたら

b　ねたらって，あたしたちが起きてさわいでいるのに，お母さん，ねられないわよねえ（阿修羅）

19) おれが松田さんをへこましたって，冗談じゃあねえ（さぶ）

上の例では，連用用法の「って」は，もともとの「て形」の性格を反映して構文に意味がゆだねられ，それ自体は単に前後を結びつけるだけの役目しかしていない。「……と言って，……」という意味で，「って」は主題化しつつあるけれども，まだ「って」に動詞性のある点が次の“話題の引き込み”の用法と異なる。

4.1.3 “話題の引き込み”

「引用」された発話，思考を，名詞述語文が受けると，引用の内容，「って」句が受けるものは新たな話題，トピックとして文の中に取り込まれ，主題と述部という対応関係が出てくる。述部は動作文となることはなく，「品定め文」になる。

20) a　へいへい，なにもかも「究極のメニュー」の担当者が悪いんです。担当

者が無能だから，東西新聞は部数競争で帝都新聞に負けてるんです。

b　その無能な「究極のメニュー」担当者って，私のこと！？（おいし）

上の例は，直前の発話を受けていることが明らかだが，次のような例はどうだろうか。

21）会えて嬉しいわ。あたしたちってやっぱり縁があるのかな（おこげ）

22）美代子，愛敬よく剛に笑いかけて「剛さんって，結婚にどんな夢とか希望を持ってらっしゃるんですか。」（おこげ）

23）a　そう簡単にあきらめないと思うな，あたしは

b　……。

a　女って　そういうもんよ（だかつ）

24）江ノ島って遠いんでしょ（さぶ）

こうした例では，「って」が受けている内容は，直前の発話ではなく，その発話の場に存在するもの，あるいは，話し手の頭の中にあることがらである。係り助詞の「は」に近いが，「は」が直接対象をこれ，それ，と提示しているのに対して，「って」では対象がいったん引用というフィルターを通る点が異なる。そこで，「世間一般に知られている」「我々が共通に知っている」といった意味を帯びる。「というものは」「ということは」という表現への言い替えが可能で，これは，定義，性格付けにほかならない[8]。

三上（1953[9]）は，提示法のムードを持つものとして「ときたら，と言えば，ってば，なら」等をあげている。「ってば，ったら」は，意味の共通性から「って」の異形態と考えられる。

25）それで，その喜びようったらないんだよ。（梅安）

26）一つ拾いにそろそろあるく格好ったら，ほんとに見られたもんじゃなかったわ（さぶ）

27）私とか，もうあせっちゃってえ，よそうよおて言ったんだけどお，その子ったら偉そうに自分がおごりますからとか言ってえ，平気な顔してるんだもん。（豊かさ）

28）姉さんてばいつでもあたしのまねばかりするのね，邪魔しないでよ（さぶ）

佐久間（1956[10]）は，「ったら」「ってば」について「いずれも特定の人を取り上げて，文句，物いいをつける的（ママ）にするもので，「あきれたものだ」という心持があります」と述べている。これは，条件の働きによって，不特定多数の中からあえて一つの対象を選び出す意味合いが生じるためと考えられる。

4.1.4 “伝聞”

これまで見てきた“引用”“反復”“話題の引き込み”は，その性質，働きは異なるけれども，「って」に述語が接続した。ところが，述語がなくなり「って」で文が終わるタイプがある。意味的には，伝聞の助動詞に近い。

29) おどろいたね，押しかけ女房だってさ，(季節)

30) なかなかうんと云わないんですって（さぶ）

31) この八重歯は抜けるんですって，はたちになれば抜けるんですってよ（さぶ）

主語は特定されない第三者である。一般に，「んだって」の形を取ることの方が多いようだ[11]。「今晩雨が降るって。」と「今晩雨が降るんだって。」では，前者は，発話をそのまま伝えている。こうした言い方は，天気予報で聞いたことをそのまま伝えるといった時でなければ実際には使わない。後者の「んだって」には，たとえ言語化されていなくても，その場で問題にされていることへの理由，事情説明といった意味合いがある。会話では，そうした発話の必然性のある方が普通だろう。

4.1.5 “言いつけ”

“伝聞”の「いいって。↓」「だめだって。↓」「行くって。↓」に対して，文の言い切りの形にさらに下降イントネーションで「だって」が付加する「いい　だって。∨」「だめだ　だって。∨」「行く　だって。∨」という言い方がある。

32) うちでもおとっちゃんと作さんのおじさんがとっかわればいいだってさ，(季節)

33) こっちは，本気だったんですけど，お前なんかに経理が務まるか，だって。(豊かさ)

34) 穴山さんが心当たりの学生はすべて当たったから，後は青木クンに任せるって。それから自分の部屋だけでもいいから，ちゃんと掃除するように，だって。(シコ)

「雨が降るって。」「雨が降るんだって。」「雨が降るだって。」を比べると，「雨が降るって。」は，人の発話をそのまま伝えているのに対し，「雨が降るんだって。」は，その場面への話し手の思い入れがある。一方，「雨が降るだって。」は，発話を名詞述語の「だ」が受けることで，発話行為が強調されている感じが強い。第三者の発話を受ける点では，前の“伝聞”と共通するが，その第三者が特定される点が異なる。発話内容をそのまま伝えるのではなく，もとの話者がこの発話者にそう発話したと発話への驚きや疑いとともに聞き手に言いつけているような感じがある。“伝聞”同様，「と」へ

の言い替えも省略もできない。

4.1.6 “問い返し”

35) a　猫かもしれませんね

b　猫だって（季節）

36) a　それよりおらのうちへ寄ろう

b　おめえのうちだって（さぶ）

37) 勝子は河口の肩をゆすって，初つぁん静かにしておくれよ，と耳もとで云った。「えっ，なに」河口は頭をあげた，「初つぁんだって」（季節）

これらはみな上昇イントネーションで用いられる。また，「って」が名詞を受ける場合には，「だって」の形を取る。直前の相手の発話を受け，それに対する疑いを示す。「あなたは……だと言うのか」といった意味になる。先の 4.1.1～4.1.5 と異なり，なくても意味は変わらない。その点で終助詞に近いと言える。

「もうすぐお母さんが戻ってきます！」という発話に対して，次のような応答があり得る。

a1　戻ってくる？	a2　お袋さん？
b1　戻ってくるって？	b2　＊お袋さんって？
c1　戻ってくるだって？	c2　お袋さんだって？

ここで問題にしている“問い返し”というのは c の用法で，b1 の発話の単なる聞き返し，確認は“引用”と考える。b2 は，“話題の引き込み”に取るのが普通だろう。

4.1.7 “訴えかけ”

平叙文

38) 旦那はまだ寝ていらっしゃるんですったら（さぶ）

39) いいったら（さぶ）

40) いいよ，わかったてばなあ（季節）

41) 本当よ！本当なんだってば！（デート）

42) a　大きなうちらしいの。

b　きたないうちだって。（話し手自身の家について）

a　親に恥かかすまいとしてさ，気遣ってんだよ。

b　ほんとだって。（冬）

命令・勧誘文

43) よせったら，さぶ（さぶ）

44) 丁か半か，よう，あれで一丁いこうったら，よう（季節）

45) だめだったら，およしってばさ（季節）

呼びかけ語　　46) おっかさんったら（季節）

これらの例はみな話し手の発話を受けるものだ。発話文の性質は，平叙文のほかに，命令・勧誘文と呼びかけ語の場合があり，それぞれの意味内容が強調される。終助詞「よ」との置き換えができ，省略が可能である。この一連の「って」には，自分の考えを人に認めさせようという押しつけの意味合いが感じられる。用例 42) b は，その文だけを見れば“伝聞”とも解釈できる。“伝聞”と“訴えかけ”とを区別するものは，“伝聞”では，引用される発話は，話し手以外の発話であり，“訴えかけ”の場合は，話し手の発話を受ける点である。

4.1.8　まとめ

以上，引用の「って」の用法をまとめると次のようになる。

意味	品詞	例文	句の話者	省略	「だ」	主文の述語
引用	動詞/ 引用助詞	俺の子（だ）って思った。 すぐ戻るって出かけた。	特定 （含主者）	×	△	発話・思考 動詞類
反復	動詞～ 係助詞	それだけって，何がある	特定 （除主者）	×	△	制限無し
話題の 引き込み	係助詞	雨が降るって，嫌だ。 雨って，嫌だ。	対者/ 一般	×	×	状態動詞
伝聞	助動詞	雨が降るんだって。 明日は雨だって。	不特定の 他者	×	△	なし
言いつけ	終助詞	雨が降る だって。∨ 明日は雨だ だって。∨	特定の 他者	×	○	なし
問い返し	終助詞	雨が降るだって。↗ 雨だって。↗	対者	○	○	なし
訴えかけ	終助詞	雨が降るってば。 早く来いって。 あしたは雨だって。	主者	○	△	なし

上の表で，省略というのは，「って」が省略できるか否かということで，○は可能，×は不可を表す。「だ」の欄は，「だ」の接続が義務的な場合は○，名詞述語文にはあってもよく，動詞文には不可の場合は△，×は「だ」の接続が不可の場合である。

「って」が持つ様々な用法の違いは，構文的には次の四つに示される。

1 「って」で受ける句の内容がだれの発話，思考か。

2 「って」の省略の可否。

3　引用句末に「だ」の付加が義務的か否か。

4　主文の述語の有無，また，述語が必要な場合，その述語の性質。

実際の用例にはこの七分類の中間的なものもあるが，この四条件が相互補完的であることから，典型例としてはこの七つを区別することが可能と思われる。

4.2　逆接の「って」「だって」

「ば」「たら」を順接の条件とすれば，「ても/でも」「たって/だって」は逆接の条件を表している。「ても」と「たって」では，「ても」は並べ立ての意味が基本と考えられる[12]が，「たって/だって」は，「とする」の意味合いがあって，条件性が強い。この「逆接」の「たって」を“逆接”“主題の添加”“反発”の三つに分類する。

4.2.1　“逆接”

下の用例を見てみると，「だって」の前には，その状況では普通は想定されにくいものごとや人が来るのが普通だ。この「とする」は，「意向形＋とする」に限らない。

47）こわれたラジオじゃあるまいし，叩いたって音はでないって（あうん）

48）会社盛り返したって，社長がくたばっちまったら，元も子もないぜ。（あうん）

49）しゃべるんだって，順番てもんがありますよ。（だかつ）

50）着る物だって，小さいときからいい物に親しんでおくのが必要でございましょ。（豊かさ）

用例49），50）は，名詞述語に「って」が付いたものである。「だって/たって」の前が動詞の時は，従属文という性格が明かだが，後に見るように名詞述語の場合には係助詞に近いものもある。次の例のように「たとえ」「どんなに」等の副詞と共起する場合には，「だって」にまだ述語性があると言えるだろう。

51）たとえ紙一枚だって，それをすくにはいろいろな手数や（さぶ）

52）黙ってひとの部屋に入って，いくら親だってひどいわよ。（思い出）

53）いかに門倉さんだって，ねえ（あうん）

4.2.2　“主題の添加”

「って」が受けるものの名詞性が強まると，「だって」は「も」に置き換えられる。どんな場合に「も」で置き換えられるのか，どんな場合に「でも」で置き換えられるのか用例をあげてみる。

「でも」への置き換えは可能だが，「も」への置き換えは不適切な例。

54) 他人の痛みなら3年だってがまんができる（さぶ）

55) 百里さきだって驚きゃあしないが，話があんまり急のことなんで（さぶ）

56) 水だけだって十日は死なないって，本に書いてあったんだから。(寺内)

57) 沢庵なんて三切れだって四切れだっていいだろ！（寺内）

「も」への置き換えは可能だが，「でも」への置き換えは不適切な例。

58) こっちだって感情害しちゃうじゃねえか（季節）

59) おめえだって雨に濡れてたぜ（さぶ）

60) それに，一僕が貯金していることだって，誰にも云ってはないんですから，自分で持ってるより大丈夫なくらいです（季節）

「でも」も「も」も可能な例。

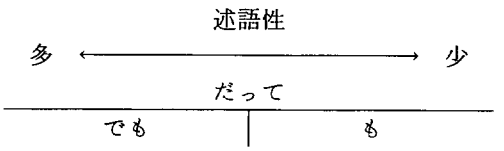
61) 神ほとけにだってわかりゃあしねえだろう（さぶ）

62) 歌だっていまだにロックンロール，ガンガン歌いますし。(朝日)

63) 台所でゴキブリを見つければ，私だってたたいて殺すし，ハエが飛び回れば外に出すか捕まえて殺す。(朝日)

64) たとえば日本のビール業界は気の毒で，税金は別としても，電気代だって米国の2倍から2.5倍も使ってアルミ缶を作る。(毎日)

こうしてみると，述語に対して主格，目的格というはっきりした格役割を担う場合，すなわち必須格では「も」による言い替えができると言えそうだ。一方，時や程度を表す副詞的な要素の場合には，「だ」が名詞述語の役割を果たしていて，文が複文構造を成していると感じられる。「でも」も「も」も可能な例というのは，もちろんそれぞれ意味合いは異なるが，両者の中間と言うべきか，述語に対してはっきりした格関係にはなく，むしろ主題の関係にある。こうした変化は，「だ」の述語性と関わりがあり，次の図のように述語性がなくなると共に，係助詞へ分化していくと言える。



4.2.3 “反発”

接続詞の「だって」も，「だから」「だが」「だけど」と同じように，「だ」+「って」という語構成と考えられる。「だって」は，相手の発話や意図を受ける点では引用の働

きがあるが，相手の発話への反発と自分の発話，考えの正当化を図ろうとする点で逆接の意味合いが強い。意味は，「だと言っても」「そうは言っても」に近い。

65）a　育児休暇だあ，このクソ忙しい時に何を言ってる。

　　b　だって男も休暇保障されてるって社報で社長もおっしゃってたじゃないですか。（逃げ）

66）a　それってひき逃げじゃない

　　b　パパ，人　殺しちゃったんだ。

　　c　人聞き悪いこと言わないの

　　a　だってそういうことじゃない！（逃げ）

67）あの人文科でしょ，文科をやってゆくには貧民階級の生活を知ることが第一なのよ，だってさ，貧民階級のほかに人権問題を全滅する道はないじゃないの（季節）

メイナード（1993）は，接続詞の「だって」について，『「だって」それ自体には，いわゆる客観的な意味（referencial meaning），又，命題内容を変えるような意味はない』と述べている[13]。これは，

A：だって行きたくないんだよ。

B：それは困ったなあ。

という会話において，「それ」の指示内容に「だって」が含まれないということである。つまり，「だって」は陳述に関わるということになる。

4.2.4　まとめ

「逆接」では，「って」で結ばれる節同士は，従属節と主節という複文の関係にある。また，主文の述語には，“引用”“話題の引き込み”の場合のような制約は特にない。何より「逆接」に特徴的なことは，それが名詞述語の「だ」と動詞の完了形にしか接続しない点である。また，形容詞を「って」が受ける場合，逆接とそれ以外とでは，次のように接続の形が異なる。

高くたって　いい/よかった。

高かったって　言ってた。

「高くたって」は，「高くしたって」が元の形と考えられる（松下 1930[14]）。

5.「って」の分化の特徴[15]

一般に語は，その形と働きによって文の中に定まった位置を占める。しかし，「って」は，それ自体が述語の働きも助動詞の働きも，また終助詞の働きもするという，多様な働きをするものである。表1は，この「って」の様々な用例を，文に現れる位置によって表にしたものである。

表1 「って」の分布

	大←――			陳述性		――→大
文の中での働き	接続詞用法	係助詞用法	接続助詞用法	述語用法	助動詞用法	終助詞用法
引用				すぐ戻るって出かけた。 俺の子だって思った。 行くったり行かないったり困る。 行くってば/ったら行くよ。		
反復			寝たらってそうはいかない。 明日（だ）って何が。			
話題の引き込み		雨が降るって困る。 子どもっておもしろい。 あの子ったらやさしい。 あの子ってばあわてない。				
伝聞					雨が降るんだって。 明日は雨だって。	
言いつけ					雨が降る だって。∨ 明日は雨だ だって。∨	
問い返し						雨が降るだって。↗ 雨だって。↗
訴えかけ						だめだって。 雨が降るってば。 明日は雨だったら。
逆接			雨が降ったって行く。 水だけだって生きられる。			
主題の添加			私だって写せる。			
反発	だって，知らなかった。					

この表を見て次の二つのことに気付く。一つは，もともとは動詞を内包する「って」

が，片や接続詞，片や終助詞へと大きく分化し，それとともに陳述性を帯びていく点である。この変化の一つは，述語により近い助動詞を経て，陳述だけを担う終助詞への分化であり，また一つは，これまた述語性を持った接続助詞から接続詞への分化である。渡辺（1974[16]）は，終助詞について「文末近くに現れるものほど，また文頭にも現れやすい」として，「ねえ，母さん，五時に出発だったね。」「よー，元気そうじゃないかよ。」という例を挙げている。終助詞だけでなく接続詞にもこの変化は見られるわけで，「が」は文頭，文中，文末に現れる。文頭で聞き手の発話を受ける「だって」と，文末で「明日は雨が降るんだって。」とこれまた他者の発話を受ける「だって」には，聞き手への働きかけという意味的に共通するものがある。また一方で，「って」の述語の主体が一般化することで「って」は係助詞に近づく。「って」がこうした一つの体系をなすという事実は興味深い。

ところで，“引用”“話題の引き込み”“訴えかけ”の「って」には，ほぼ同じ意味で「ってば」「ったら」あるいは「ったり」という形があった。これらを「って」の活用形と考えることは可能だろうか。「って」は，定まった意味を持っているが，独立して使われることはないので，自立語とは言えない。これは，使役を表わす -aseru や受身を表わす -areru が，動詞の活用形ではないが，-asete, -aseta, -aseyoo 等とそれ自体活用するのによく似ている。現代語を体系立てる活用形の中から Block（1975[17]）を取り上げて，「って」の変化形と比べてみる。

Block（1975）の活用形		「って」の異形態	例文
直説・非過去	taberu		
直説・過去	tabeta	（行く った）[18]	今行くったか。
推量・非過去	tabeyoo		
推量・過去	tabetaroo	行く ったろう	おまえさんは，行くったろう。
命令	tabe		
与件	tabereba	行く ってば	行けってば　行かないこともないが。
条件	tabetara	行く ったら	行けったら　すぐに後ろを向くんだ。
選択	tabetari	行く ったり	行けったり，行くなったり，どっちだ。
不定詞	tabe		
動名詞	tabete	行く って	俺が行くって出かけた。

こうしてみると，“te”の系列の活用形は，きれいにそろっていて，意味の上でも共通性があり，不完全ながら活用すると言えないことはないだろう。ただ，活用するということは陳述の変化を必要とするから，上の例のように「言う」という動詞の意味をはっきり包含している狭義の“引用”の場合に限る。文末に現れる「って」の変化

についてはもちろん活用形とは言えない。

「って」の用法を整理して気付くもう一点は，名詞述語の「だ」のふるまいである。「って」が名詞をそのまま受ける場合というのは，「女ってそういうもんよ」という「って」が係助詞的に用いられるときである。一方，「って」が名詞をそのままでは受けないのは，「って」が，終助詞（“訴えかけ”，“言いつけ”，“問い返し”），助動詞（“伝聞”）的な働きをする場合である。助動詞，終助詞は文を受けるものだから，陳述性がない名詞の場合には，述語の「だ」が必要になるのは当然である。ところが，ここで興味深いのは，本来方言を除けば用言には接続しない「だ」が，用言あるいは名詞述語文に接続する点である。すなわち，“言いつけ”の意味で「雨が降るだって。∨」「明日は雨だ　だって。∨」，“問い返し”の意味で「雨が降るだって。↗」という文があり得る[19]。もともと「引用」によって引用される節の陳述性は失われる。野田（1989[20]）の用語を用いるなら，「と」によって，その前の述部に「真性モダリティ」がなくなる。「旅行したい。」という文が持つ陳述性は，「田中さんは旅行したいと言っていた。」という文では，主節に及ばず，文全体の中では体言化している。ところが，「って」の一部の用法は，陳述性が無くなり体言化している叙述内容をさらに名詞述語の「だ」が受けていることになる。このため，叙述内容が素材であることはなお一層明確になり，後続する「って」は，それが人の発話であることを強調する。その結果，“言いつけ”“問い返し”といった叙述内容より相手の発話行為自体を問題にする場合に，この「用言＋だって」が使われると考えられる。

注

1. 湯沢（1954）577-578，592-598，661-662頁。
2. 此島（1973）149-152，355-356頁。
3. 佐久間（1956）72-73，250-251，290-292頁。
4. 主題文に現れる「って」の用法については，藤村逸子（1993）「わからないコトバ，わからないモノ―「って」の用法をめぐって―」『名古屋大学言語文化部』，丹羽哲也（1994）「主題提示の「って」と引用」『人文研究』大阪市立大学，渡辺誠治（1995a）「題目提示に関する『φ』と『ッテ』」『さわらび』4号　神戸市立大学，（1995b）「ある要素に対する新規の属性の取り入れに関わる形式―「ッテ」と「φ」を中心に―」『日本語・日本文化』21 大阪外国語大学，普久原イサベル（1995）「〈同定説明〉と〈特質説明〉―「って」「というのは」を中心に―」『日本語日本文化研究』5号　大阪外国語大学　らが，文末表現の「って」については，守時なぎさ（1994）「話し言葉における文末表現「ッテ」について」『筑波応用言語学研究』1が，また係り助詞的「だって」については，小野米一・李志華（1988）「係助詞「でも」と「だって」の用法について」『北海道教育大学紀要』人文科学編　39巻

1号　らの研究がある。

5. 森重の1954と1965では，「いう」の主語や意味に関して異なる点がある。また，ここにまとめたもの以外に森重が取り上げている「って」の用法もある。ここでは1954を中心に，本稿に関係するところをまとめた。

6. 森重（1965）180頁。

7. 森重（1965）は，「だからって」を係り助詞に分類している。確かに意味的には主題化しつつあるが，「休みだからと言って」と，まだ動詞を補うことができるので引用の意味合いが強いと考える。

8. 田窪行則（1989）（「名詞句のモダリティ」『日本語のモダリティ』くろしお出版）は，メンタルスペース理論をもとに，「N って」を記号（N）自体の定義をする用法と規定している。さらに先の注4の丹羽（1994）は，主題提示の「って」を「は」「とは」「というのは」と，渡辺（1995b）は，「は」「ϕ」と比較しながら論じている。

9. 三上章（1953）『現代語法序説』1972復刊　くろしお出版　205-209頁。

10. 佐久間（1956）250頁。

11. 山崎誠（1996）「引用・伝聞の「って」の用法」国立国語研究所研究報告集17に同様の指摘がある。

12. 星野和子（1986）「現代語における「も」の用法」東京女子大学　「でも」には例示の用法もあるが，「だって」にはその用法はないので考えない。

13. メイナード泉子（1993）『会話分析』くろしお出版　180-193頁。

14. 松下大三郎（1930）『標準日本口語法』中文館書店復刊（増補校訂）勉誠社302，303頁。「て」は本来動詞を受けるものだったため，形容詞には「あり」「す」が挿入される必要があったと考えられる。（此島正年（1973）168頁）。

15. 「って」というのは，話し言葉で使われるもので，これ自体省略形だが，次に見るようにその省略の仕方も一定ではない。

　1　おかみさんに出ていけって云われたんだ（さぶ）

　2　仕事が終わりしだい戻って来るって，本町のお店とかへ行ったわ（さぶ）

「って」の省略形の中で特に問題になるのは，次のような「ったって」の形だと思われる。

　3　だって，電話かけて，すぐ来いったって，女は，いろいろ支度にかかるのよ，ねえ，奥さん。（あうん）

　4　だから結婚記念日ったって，特別に何かをしたことなんてない。（日経）

　5　奥床しいったってさ，程度があるよ，御曹司ったって。（あうん）

　6　書くったって，読むったって，辞書がなけりゃどうしようもない。

こうした「ったって」は，「と言う」の過去形と「とする」の連用形が合わさったもの，すなわち引用と逆接の合体形と考える。また，次の例のように前に来る動詞が意向形の時は，「とする」の過去形と「とする」の連用形が合わさったもの，すなわち「ようとする」という決断の「とする」に逆接の「って」が付加したものと考えられる。

　7　いやあ，ありゃ忘れようたって，かんたんに忘れられないやねえ（金魚）

　8　肝心の，おふくろが死んじゃったんだから，なにをしようったって始まりゃしない，僕も一巻の終わりだし，自分のことぐらい自分でやりますよ。（ばち）

次のような「ってったって」という使い方もあるが，これは「と言う」の省略が完全ではな

い段階と考える。

9　まだってったってべらぼうめ，今夜からいっしょに寝るんだろう（さぶ）

10　……十八のとしから七年の余もバー勤めをしていてそれなんだから，全くうぶってったって限界があろうじゃねえか，そうでしょう　たんばさん（季節）

16. 渡辺（1974）52頁。

17. R. A. Miller 編（1975）　林栄一監訳『ブロック日本語論考』研究社 1-14 頁。

18.「って」の完了形「った」は，次のような「何てった」という形でしか用例には現れなかった。

(1) お父さん，こないだ，何てったすか。（だかつ）

(2) a　いま，なんてった。

b　よかったっていったのよ。（金魚）

(3) ね，今の人，名前何てったかしら。（金魚）

19. 藤田保幸氏は，「だ」の指示性（「君がだ，見てだ，……。」といった前のものを引いてくる働き）とこの「だ」との関連を指摘された。（1997. 7. 27. 於青山文法研究会）

20. 野田尚史（1989）「真性モダリティをもたない文」『日本語のモダリティ』くろしお出版。

参考文献

湯沢幸吉郎　1954『増訂　江戸言葉の研究』明治書院

佐久間鼎　1956『現代日本語法の研究』1983 復刊　くろしお出版

森　重　敏　1956「「て，って」「てば，ってば」「たら，ったら」について」『国語国文』23-11

日下部文夫　1956「口語動詞の活用の考え方」岡山法文学部学術紀要 7

中田・竹岡　1960『あゆひ抄新注』風間書房

森　重　敏　1965『日本文法―主語と述語―』武蔵野書院

渡　辺　実　1971『国語構文論』塙書房

此島正年　1973『国語助詞の研究　助詞史素描』桜楓社

渡　辺　実　1974『国語文法論』笠間書院

藤田保幸　1986「文中引用句「～と」による「引用」を整理する―引用論の前提として―」『論集　日本語研究（一）現代編』宮地裕　明治書院

三枝令子　1995「「だって」「たって」の本義とその用法の広がり」『日本語の研究と教育　窪田富男先生退官記念論文集』専門教育出版

例文出典

あうん『あ・うん』，阿修羅『阿修羅のごとく』，冬『冬の運動会』，寺内『寺内貫太郎一家』，思い出『思い出トランプ』向田邦子　新潮文庫／隣『隣りの女』向田邦子　文春文庫／

だかつ「蛇かつのごとく」，金魚「きんぎょの夢」『蛇かつのごとく』向田邦子　大和書房／デート『一番長いデート』赤川次郎　集英社，季節「青べか物語・季節のない街」『山本周五郎全集14巻』，さぶ『さぶ・おごそかな渇き』，ばち『おさんあすなろう』山本周五郎　新潮社／梅安『梅安料理ごよみ』池波正太郎講談社文庫／豊かさ『豊かさの精神病理』大平健　岩波新書／会えて『会えてよかったね』石井ゆうみ　講談社／逃げ「ひき逃げファミリー」『93年鑑代表シナリオ集』，シコ，おこげ「シコふんじゃった」「おこげ」『92年鑑代表シナリオ全集』シナリオ作家協会編　映人社／おいし『美味しんぼ25』雁屋哲　小学館／朝日　朝日新聞／日経　日本経済新聞／毎日　サンデー毎日

拙稿をまとめるにあたり，藤田保幸氏，今村和宏氏，庵功雄氏から有益なご教示を頂きました。記してお礼を申し上げます。